



UCS の障害抑制

- [グローバル障害ポリシー \(1 ページ\)](#)
- [グローバル障害ポリシーの設定 \(2 ページ\)](#)

グローバル障害ポリシー

グローバル障害ポリシーは、障害がクリアされた日時、フラッピング間隔（障害発生とクリア状態の間の時間）、および保持間隔（システムで障害が発生していた時間）など、Cisco UCS ドメイン内の障害のライフサイクルを制御します。

Cisco UCS の障害には次のライフサイクルがあります。

1. ある状況がシステムで発生し、Cisco UCS Manager で障害が発生します。これはアクティブな状態です。
2. 障害が軽減されると、フラッピングまたはフラッピングを防ぐことを目的としたソーキング間隔になります。障害が発生し、すぐに何度かクリアされると、フラッピングが発生します。フラッピング間隔の間、グローバル障害ポリシーに指定されている期間は、障害の重要度が保持されます。
3. フラッピング間隔中に同じ条件が再発生した場合は、障害がアクティブ状態に戻ります。フラッピング間隔中に同じ条件が再発生しない場合は、障害がクリアされます。
4. クリアされた障害は保持期間になります。この期間があるため、障害が発生した状態が改善され、さらに障害が早々に削除されていない場合でも管理者が障害に気付くことができます。保持期間のうち、グローバル障害ポリシーに指定された期間はクリアされた障害が保持されます。
5. この状況が保持間隔中に再発生する場合は、障害がアクティブ状態に戻ります。この状況が再発生しない場合は、障害が削除されます。

グローバル障害ポリシーの設定

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Admin] をクリックします。
- ステップ 2 [All] > [Faults, Events, and Audit Log] の順に展開します。
- ステップ 3 [Settings] をクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインの [Global Fault Policy] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Global Fault Policy] タブで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Flapping Interval] フィールド	<p>障害が発生し、すぐに何度かクリアされると、フラッピングが発生します。これを防止するため、Cisco UCS Manager では、最後に状態が変更されてからこの時間が経過するまで、障害が発生しても状態は変更されません。</p> <p>フラッピング間隔中に同じ条件が再発生した場合は、障害がアクティブ状態に戻ります。フラッピング間隔中に同じ条件が再発生しない場合は、障害がクリアされます。その時点で何が発生するかは、[Clear Action] フィールドの設定によって異なります。</p> <p>5～3,600 の範囲の整数を入力します。デフォルトは10です。</p>
[Initial Severity] フィールド	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Info • 条件 • 警告
[Action on Acknowledgment] フィールド	<p>認識されたアクションはログがクリアされると必ず削除されます。このオプションは変更できません。</p>
[Clear Action] フィールド	<p>エラーがクリアされるときに Cisco UCS Manager が実行するアクション。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Retain] : Cisco UCS Manager GUI によって [Length of time to retain cleared faults] セクションが表示されます。 • [Delete] : 障害メッセージにクリアのマークが付いた時点で、Cisco UCS Manager はすぐに障害メッセージを削除します。

名前	説明
[Clear Interval] フィールド	Cisco UCS Manager によって特定の間隔で自動的に障害をクリアするかどうかを指定します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">• [Never] : Cisco UCS Manager は自動的に障害をクリアしません。• [other] : Cisco UCS Manager GUI によって [dd:hh:mm:ss] フィールドが表示されます。
[dd:hh:mm:ss] フィールド	Cisco UCS Manager が障害にクリア済みのマークを付けるまでの経過時間（日、時、分、および秒）。その時点で何が発生するかは、[Clear Action] フィールドの設定によって異なります。

ステップ 6 [Save Changes] をクリックします。

次のタスク

障害抑制の詳細については、『Cisco UCS システム モニタリング ガイド』を参照してください。

